事業評価シート（平成27年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	博物館特別展事業	
事業担当	社会教育部　博物館	
事業種類	○ハード　●ソフト	
総合計画の位置付け	'01	基本目標1　豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち
	'02	②〈感性〉　生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ
	'02	2 優れた芸術・文化を鑑賞する機会を充実する
根拠法令等		
対象・受益者	市民	事業期間
委託、協働	【委託:　3セク・財団　企業　NPO　その他　】【協働:　館事業参加市民　】	

目的・目標	事業の概要
学芸員の研究成果が、市民の知的共有財産となっています。	学芸員が収集・調査・研究した成果を市民の知的共有財産とするため、特別展を開催し、その成果を分かりやすく具体的に展示します。

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	特別展開催日数		単位	日
	説明・算定式	夏期・秋期・春期特別展、企画展、博物館文化祭の開催日数			
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	160	165	170	
	実績	153	163	150	
活動指標②	指標名	特別展関連事業開催日数		単位	日
	説明・算定式	期間中の講演会・見学会等			
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	25	27	30	
	実績	32	53	31	
成果指標①	指標名	特別展開催期間中の入館者数		単位	人
	説明・算定式				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	38,600	38,700	38,800	
	実績	35,555	34,642	36,228	
成果指標②	指標名	図録売上部数		単位	部
	説明・算定式	開催期間中の当該特別展図録売上部数			
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	630	650	660	
	実績	346	626	502	

進捗状況	①：予定どおり	
	遅れている理由	

平成27年度の主な取組と成果

市民とともに長年の活動で蓄積してきたノウハウの公開や、総合博物館の強みを生かした相模川流域の新たな視点の提示など、3回の特別展それぞれに平塚市博物館ならではの特色あるテーマを採りあげ、博物館の活動姿勢を示しました。関連事業も意欲的に開催し、観覧者数は26年度を上回りました。

平成27年度の検証結果	B：おおむね成果があがった

	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事業分析	必要性	■ 市民ニーズ ■ 事業目的の達成状況 ■ 市の関与の必要性 □ その他	市民が人生の「豊かさ」を実感できる知的欲求に応える事業です。展示で実物に接するインパクトに加え、図録購入によって反復学習が可能です。新しい知的地域資源を拓く開発的事業であり、市の関与が必要です。	● 高 ○ 低
	有効性	□ 上位施策への貢献 ■ 市民満足度を高める方策 ■ 継続による成果向上の可能性 □ その他	特別展は市民の知的要求に、実調査に基づいた高い水準で応えています。また刊行図録は限られた展示スペースを補うとともに、会期後も、展示を見逃してしまった市民へのサポートになっています。	● 高 ○ 低
	妥当性	■ 事業の目的、対象、内容 ■ 受益者負担、補助額 □ 業務の執行体制（人員配置、業務分担） □ その他	教育普及活動で学び、スキルを得た市民が調査活動に寄与して、それが展示内容に結実しています。受益者が、学びを楽しみつつ数年後には供益者となるしくみです。展示図録として知的成果が市に蓄積されます。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	■ 業務プロセス改善による効率化の方策 □ コスト削減の可能性 □ 事業手法（民活の余地、事業形態の検討） □ その他	外注部分を館内製作に切り替える等制作プロセスを見直し、制作経費の軽減に努めました。調査から制作まで、プロセス全般に市民が学芸員とともに参加しており、効率化が有効に行われています。	● 高 ○ 中 ○ 低

今後に向けた課題の分析

秋期特別展では、展示資料点数が多く準備と撤収に日数を要したことで展示そのものの開催日数を圧縮する結果になりました。観覧者の評価も分かれており、展示内容をどのように整理し、絞り込んでいくかを充分に検討する必要があります。

3. 年度別事業内容・決算額

（単位：千円）

		平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額
事業内容		考古部門等の特別展の開催	天文部門等の特別展の開催	歴史部門等の特別展の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他　特財	1,482	1,623	1,624
	一般財源	4,236	4,489	3,462
事業費（A）		5,718	6,112	5,086
執行率（%）		91.93	98.84	83.53

4. 今後の事業展開（担当課としての提案）

平成29年度の取組方針

展示により興味を喚起された市民が、行事への参加によりノウハウを獲得し、新しい知識を生み出す側に回るような、博物館を起点とした循環型の生涯学習活動を推進します。また、終了した展示図録についても利用促進を図ります。

課長コメント

特別展は博物館という施設の自己表現であり利用者との対話の場です。27年度は、市民へのメッセージを込めた資料展示が各特別展でできました。各展示に対する市民の反応を受け止めて、今後の事業展開の糧として行きます。